

新世界(しんせかい)

登録番号：第1564号

育成者：中条忠久 大塚益行

登録年月日：昭和63年3月5日

来歴：「ふじ」と「あかぎ」の交雑

登録者：群馬県(前橋市大手町1-1-1)

実生

特性

■栽培特性

育成地における発芽期は4月上旬、開花期は5月上～中旬で、一般品種とほぼ同じである。果実の成熟度は10月上～中旬で中生品種として重要な位置を占める。収穫前落果は樹勢が正常な状態の時はほとんど認められない。

主要品種との交雑和合性は、「つがる」または「ふじ」の花粉で55%、比較的近親にある「あかぎ」や「陽光」の花粉を交配しても81～95%と高い受粉率を示し、いずれの品種とも交雑和合性は高いものと考えられる。さらに、自家結実率が他品種に比較して極めて高いことも特記すべき点である。

結果樹齢に達するのは「あかぎ」に類似して早く、ややわい性的生育を示し、早期結実性である。樹姿はやや直立性を示すことから、栽培管理面において枝の誘引、ねん枝が結果枝のハゲ上り防止上大切である。結実期に入ってから花芽の着生が良好なので、結実過多による樹勢衰弱を起こさぬよう栽培管理に留意する必要がある。

■果実特性

栽培地、栽培条件によって果実の成熟期や果実品質が左右されるが、育成地においては10月上～中旬に成熟し、果実の大きさは300g以上の大玉である。糖度は14～15度、酸度は0.3～0.4%であり、甘酸適和で食味は良好である。果肉には蜜が入り、果汁も多く、芳香を有する。

着色は極めて良好で濃紅色縞状に着色し、さび、ひびなどの果面障害は少ない。着色が極めて良好であることから早期に収穫されやすいが、この品種は「ふじ」同様完熟しないと食味が劣る。また、収穫期が遅れると梗元の裂果の発生が増加し、酸の消失により甘口のリングとなる。成熟期の日照不足は渋味発生の原因となる。

■病虫害抵抗性

斑点落葉病に対しては極めて強い抵抗性を示し、うどんこ病にも同様に抵抗性を示すことから栽培が容易である。

■地域適応性

現在、地域適応性について検討中であるが、かなり広範囲の適応性を示す品種であると考えられる。群馬県における普及面積は全体の20%の100haを目標としている。

(中條忠久)